日本における情報過負荷感およびその関連行動の検討

岡本　卓也

現在、スマートフォンの普及や通信環境の向上により、インターネットを中心としたオンライン環境が年々広がり、中には「ネット疲れ」といった現象が生じている。本研究では、そのようなオンライン環境の中で、オンライン通信利用者の属性やオンライン行動と「ネット疲れ」のようなオンライン環境に対する心理的な負担との関係について調べることを目的とした。オンライン通信利用者の属性やオンラインにおける日常的な行動や習慣とオンラインにおける情報過負荷感（受け取った情報がその人の情報処理や知覚の容量を超え、心理的なストレスを感じること）の関係を調べるために、性別や年齢などの基本項目、使用している機器の種類や SNS の種類、情報過負荷感、オンラインにおける行動に関する質問調査を実施した。これらの項目を基に、オンライン情報に負担を感じている人と負担をあまり感じていない人で、オンライン通信との関係にどのような違いがあるのかを、仮説を基にして比較検討することにした。さらに、オンラインにおける PIO（OPIO）を測るための尺度を新たに構成することも目的の 1 つとした。

得られた回答について、回答偏向項目の除去、尺度の信頼性分析と妥当性分析 t 検定、一要因分散分析、因子分析、重回帰分析を行った。まず、信頼性分析と妥当性分析の結果、OPIO に関して新たに尺度を構成することに成功した。各属性やオンライン行動を独立変数、OPIO 得点を従属変数とした t 検定ではいずれも有意な群間差は見られなかった。各属性やオンライン行動を独立変数、OPIO 得点を従属変数とした一要因分散分析においては、いずれの属性やオンライン行動においても主効果は見られなかった。各属性と項目ごとのオンライン行動などを独立変数、OPIO 得点を従属変数とした重回帰分析においては、会社員と高い OPIO に関係が見られた。続いて、オンライン行動項目で因子分析を行ったところ、事前の予測や見立てに依存して情報選択や決定を行う恣意的情報選択因子と限られた情報源のみを利用する情報源限定因子の 2 因子が得られた。その後、各属性と恣意的情報選択因子や情報源限定因子の尺度得点などを独立変数、OPIO 得点を従属変数とした重回帰分析を行った。結果、恣意的情報選択因子、情報源限定因子が高 OPIO と利用 SNS の Twitter が低 OPIO と関係しており、会社員がフリーター・無職・職業その他より、中卒が院卒と大卒よりそれぞれ OPIO が高くなることが分かった。これより本研究では、高い OPIO を予測する属性とオンライン行動、低い OPIO を予測する利用 SNS を明らかにすることができた。（社会心理学）